

令和5年度 第2回 富谷市協働のまちづくり推進審議会 会議録

日 時：令和5年8月31日（木） 10時00分～11時54分

場 所：富谷市学校給食センター 研修室

参加者：富谷市協働のまちづくり推進審議会 出席委員9名 欠席委員1名

：富谷市 1名

：事務局 5名

1 開会（司会：市民協働課 課長）

2 会長挨拶

本日は協働のまちづくり推進審議会にご出席いただきましてありがとうございます。

実は昨日、この審議会で皆さんとお話をしている中で出てきたことをヒントに市民活動交流会が実施されました。

市民交流って何だろうというときに、解決するだけなのかということ、また佐藤政悦委員からの話で、現地でいろいろとお話を聞こうということになったものです。

結構盛り上がったんですが、あとはどのように活動につなげていくかという課題ももちろんあるんですけど、参加された方にお話伺ったら、広報を大体皆さんを見て、参加されていました。アプローチを変えたら、さらに魅力がある取り組みになるのかなあと思いました。今回第1回目の市民活動交流会だったんですが、その中身についてもこの審議会の中で触れていきたいと思えます。

今回も前回同様、忌憚ないご意見を出していただきまして、良いものは取り入れていきたいと思っておりますので今日もよろしく願いいたします。

3 市長挨拶

おはようございます。

本日は令和5年度第2回目富谷市協働のまちづくり推進審議会ということで、本当に大変お忙しいところ、ご出席いただき誠にありがとうございます。

ただいま、佐々木会長のご挨拶にもありましたように、昨日と今日と連日ご参加いただいている委員の方々もいらっしゃいます。前回の第1回審議会の中で、たまに外に出てやってみるのはどうでしょうかとお話をいただいて、私からも是非にということをお願いしたところ、多くの皆さんにご参加いただきました。昨日も30℃を越す、猛暑日にもかかわらず、シャインマスカットなどを実際に栽培されてる佐藤政悦さん、そして今、時の人でございます、全国的には連日テレビ、新聞で報道されております、今月、8月3日、「蜂蜜の日」に「第6回ハニー・オブ・ザ・イヤー」で日本ミツバチの部で最優秀賞、市役所の屋上でやっている蜂蜜の国産部門で優秀賞ということ、さらに当日会場にこられた方々のアンケートでも第1位ということで、三冠をとられました。富谷の蜂蜜が素晴らしいという高い評価をいただきました。これまでもお話ししておりますが、ミツバチは環境指標生物ということで、ミツバチの住む地域は、環境も素晴らしいということで、その背景、なぜ富谷の蜂蜜が、なぜそんなにおいしいんだろうと全国の注目をいただいているところで、佐藤政悦さんと村上さんといった、スペシャルなお二人のお話を猛暑日ではありましたが参加者の皆さんも時間をオーバーして、話を聞いていただきました。皆さんが本当にいきいきと、こんな有意義な時間はなかったということお話をいただき、改めて外、現場に出てみんなで体験することは新たなつながりをつくり、共有・交流することは有効なん

だなんていうのを改めて思ったところでございます。

今日は6月26日に第1回目で諮問をさせていただきました内容に引き続き、市民の公益的活動への支援についてご審議いただくこととなっております。

富谷はおかげさまでテレビや新聞でいろいろ取り上げられておりますが、住みよさランキング、住み心地ランキングでも4年連続東北1位ということで、いろいろ取材をうけておりますが、私は富谷の市民力の強さが富谷の元気、勢い、住んでいる人たちみんなが住んでよかった、住み続けたいまちとして東北で1位になっている要因だということを改めて感じているところです。さらにその市民力を高めていくために、審議会でもただのご意見、支援の在り方というのは大変重要ですので、答申を楽しみにしております。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

4 審議事項

市民の公益的活動への支援方針について

(佐々木会長)

それでは、審議に入る前に委員の皆様にお諮りいたします。会議の傍聴及び富谷市情報公開条例に基づく開示請求があった場合の本審議会と会議の資料及び会議録の公開につきまして、ご了解をいただけますでしょうか。

※「異議なし」の声あり

それでは、委員の皆様からご了解をいただきましたので、会議の傍聴及び会議録等の開示請求があった場合は、公開することといたします。ただし、個人に関する情報等が含まれる場合は、富谷市情報公開条例第7条に基づき、不開示とすることを申し添えます。

それでは、本日の傍聴人について、事務局から報告をお願いします。

(事務局 坂爪課長)

本日の傍聴の申し込みは1名です。

(佐々木会長)

只今、傍聴人が1名お見えになっているとのことですが、傍聴を許可します。

※傍聴人 入室

審議会の途中で傍聴希望があった場合、傍聴を許可することといたします。

また、本審議会の会議資料及び会議録につきましては、委員皆様に内容を確認いただきました後に公開させていただきますので、ご了承願います。

なお、個人に関する情報等が含まれる場合は、富谷市情報公開条例第7条に基づき、不開示とすることを申し添えます。

それでは、審議に入ります。

今日は、公益的活動への支援ということについて議題としていきたいと思っております。これは前回からの引き続きの協議ということになっておりまして、先ほど私もお話ししましたし、市長からお話がありましたが、この間の議論で実際に市民活動交流会なども実施しております。私たちとしましては、答申に仕上げていけないといけないという責務も負っておりますので、今日、資料として用意しております素案について、皆様のご意見をもとに

まとめてもらっていますけども、丁寧に、特にこの資料2のところは、一言一句確認していくような形で事務局より説明をお願いしたいと思います。

それでは事務局、お願いします。

(事務局 瀧田課長補佐)

それではわたくしから資料の内容について説明申し上げます。

6月26日に開催した第1回審議会において、事務局より公益的な活動への支援方針について、富谷市総合計画後期計画における市の考え方や令和2年度に策定した協働ガイドライン「わくわく つながる わたしたちのまちづくり」における取組の方向性、令和3年度・4年度にご審議いただき、答申をいただいた「公益的な活動への支援に関する提言」について改めて説明申し上げます。それらを踏まえて、委員の皆さまよりいただいた、現状の課題やご意見を集約し、分類して整理させていただいたものが資料1、項目別にまとめたものが資料2となっております。はじめに資料1について説明をさせていただきます。

委員の皆さまのご意見をもとに実施する具体的な支援として8つの項目に体系別に整理しております。

はじめに、委員意見の1番、2番、3番として、佐伯委員、曾根委員、佐藤怜美委員より、それぞれのお立場における中間支援についてご意見がありましたことから、中間支援機能について言及するとともに、委員意見の4番として、日諸委員よりシルバー人材センターの活動において高齢者世代の強みを発揮させられる機会の仕掛けやサポート体制の構築、経験に基づく、郷土を愛する人材を育成する機会の支援とのご意見がございましたので、項目(1)相談、コーディネート・ネットワークづくりとして「中間支援組織として、子どもから高齢者まで市民や団体、企業、市など地域の様々な主体が連携協働した活動に取り組めるようコーディネートします。」との表現をいたしました。

項目(2)情報発信については、委員の皆様よりご意見はございませんでしたが、市ですでに実施している事項であります。今後、なお注力していくべき事項として掲載させていただきます。

続いて、再掲となりますが、委員意見の3番として、佐藤怜美委員より、「とみぷら」と「ボランティアセンター」の連携についてご意見がございましたので、項目(3)情報収集として「他の地域施設や組織と、それぞれが持つ情報(活動団体や人材バンク、実施イベント等)を共有し、生きた情報を蓄積し、相談対応やコーディネートの際に活かします」といたしました。

続いて、委員意見の5番として、北野澤委員より、昔活発な活動していた人が年も重ねて、だんだんその活動から引いてきて、その次の世代の人にうまく引き継がれていけない。人材の育成という部分もある。会社の先輩たちも、もう年金暮らしをしているが、すごく優秀で能力を持った人たちが山ほどいる。そういう人を眠らせておくのはもったいないとのご意見があったのと、再掲となりますが、委員意見の4番で、日諸委員よりシルバー人材センター会員の高齢者世代の強みを発揮させられる機会とか仕掛け、サポート体制の構築という意見がございましたので、項目(4)人材の発掘・育成・活用として「生涯学習や市民活動で活動している方の中から、スキルのある人材を発掘するのはもちろんのこと、団体や地域から収集した情報を活用し、在職時のキャリアも含め様々な分野の技術・知識を持つ人材も、地域での活動をつなぐ担い手として育成を進めます。」とし、さらに委員意見の6番で、平岡委員より「とみやど」や「富谷塾」、「荷宿」など、せっかくいい企画をしているので、市民がもっともっと行けるような雰囲気を作ってもらいたい。また、町内会も高齢化が進んできているので、身近にある町内会館を大いに使ってほ

しいと考えて実施したのがまちかどカフェで、町内会館が行く場所になり、世代を超えた交流の場所にもなるのご意見がございましたので、「人材の活用として、講座実施への参画を促したり、他の地域施設や団体へ紹介したりするなど、気軽に活動に取り組めるような活動機会の提供、サポート体制を図ります。」といたしました。

続いて、委員意見の7番として、村上委員より、いろんなことをやる時に、窓口がいろいろ変わる。担当となる課が連携してつながってやれば、すごくもっといい活動になって、人材もそこに寄って、集められていくと思うのご意見がございましたので、項目(5)施設間のネットワーク構築として「地域の課題や魅力・情報の共有化を促進するため、市民協働課、富谷市産業交流プラザ、社会福祉協議会、富谷市ボランティアセンター等、地域の施設・組織等と情報共有及びネットワークの構築を進めます。また、市役所関係部署ともネットワーク構築を進めます。」といたしました。

続いて、委員意見の8番として、佐藤政悦委員より、農業と地域のマッチング、交流も必要ではないかと思うのご意見がございましたので、項目(6)講座・イベントとして「講座・イベントの企画・実施にあたっては、子どもから高齢者まで幅広い世代の人材の発掘・育成や参加者・団体同士のつながりづくり、情報やノウハウの共有」とし、更に再掲になりますが、委員意見の4番で、日諸委員よりシルバー人材センター会員の高齢者世代の強みを発揮させられる機会とか仕掛けというご意見がございましたので、「それぞれの目的に合わせた仕掛けが重要であり、必要に応じ、実施後の参加者へのサポートを行い、次の段階に繋げていきます。」といたしました。

続いて、委員意見の10番として、増田委員より、町内会館が他の公的などところと違うのは、その所の住民であれば、営業のイベントでなければ、無料で借りられるっていうのと、町内の方なら歩いて来れる距離という、とても条件を兼ね備えている。一つだけ、いつも苦勞するのは、駐車スペースがないということだが、歩いてきてとお願いするか近所の方にその時々借りるが、そういうのもコミュニケーションの一つとして工夫してやっているというご意見がございましたので、項目(7)場の提供・機材の貸出として「利用者にとって身近な活動しやすい場を提供したり、利用者とのコミュニケーションを図ったりする機会としての活用を図ります。」といたしました。

続いて、委員意見の11番として、増田委員より、助成金については金額は小さくてもいいので、本当に活動が良い、ちゃんと報告が上げれば、最低限のこのお金は助成しますという形がボランティア団体の人は使いやすい。そういう助成のあり方というの、ぜひ市民活動の方から、あり方とかどうやって経営しているんだとか、運営しているんだというのを聞いて、富谷市ならではの使いやすい支援を考えていただきたいのご意見、また、委員意見の12番として、佐藤怜美委員より実際の現場の声を聞くと、助成金の使い道が難しく、ここには使えるけどこの部分には使えないという助成金が多くあり、運営に困っているという相談を受けている。社協でやっている助成金はその活動の良さというか、地域にやはり必要だからと思えば出すことができ、すごく厳しい条件というのではないので、永久的にはではないが、その活動が続く限り、毎年出せる助成金になっている。そのような助成金をもうちょっと広めていきたいのご意見、更に委員意見の13番として、村上委員より、市民活動から始まって、ただ法人格を取ったっていうだけで中身はそうそうすぐ変わるわけでもなく、継続するために一番大変だったのは助成金で、いろんな助成金を申請し、20件くらい、とれてだんだん大きなことができるようになってきたというのを実際やってみて感じたのご意見がございましたので、項目(8)活動の活性化を促す助成として「一定の条件のもとですべての市民公益活動団体が公平、公正に補助を受けられる制度を整備し、活動の自立・継続・発展につなげます。」との文言及び「持続可能な活動に向けた相談に対しては、補助金や民間企業の助成金等の情報提供なども行いま

す。」といたしました。

以上が第1回の審議会において委員の皆さまよりいただいた現状の課題やご意見を集約し、分類して整理させていただいたものとなります。

続きまして、資料2をご覧ください。これまで説明申し上げました項目について、体系的に案として掲げさせていただいております。

続いて、本日配布いたしました資料3について説明いたします。

7月28日に開催した令和5年度第1回とみやわくわくミーティングにおいて参加者より出された意見の一覧となります。

今回のミーティングは市民活動をされている方を対象として開催し、13名の方にご参加いただきました。

いただいた主なご意見については、資料2「富谷市の実施する具体的な支援について（案）」の項目と突合させているものとなっております。

私からの説明は以上となります。

（佐々木会長）

これまで継続して委員をやられてる方からしますと、毎回こういうやり方で、何か一番最初の会議で行政のたたき台を作ってそれについて我々も見るのではなくて、最初の委員会でフリーでディスカッションして、フリーと言いましても、ワークショップとかではないので、基本的には発言する機会というのは時間の中でなくなってしまいうんですが、その中で出させていただいた意見を元に資料1を作ってもらって、皆さんの意見を基本的にそのまま活字にしてもらって、それを基に資料2を作ってもらってるわけですが、この資料2がそのまま答申に繋がっていきますので、資料2について、一言一句確認をしたいなと思っています。

そして、資料3なんですけども、この間、わくわくミーティングやったり、市民活動交流会を実施して皆さんから意見を吸い上げています。

なかなかどういう支援が欲しいかという話をしても、意見いっぱい入れればいいわけじゃなくて、今自分たちが充実して活動するっていうのもすごい重要な意見ですので、昨日の市民活動交流会でも皆さんにお伺いしたところ、例えば今回の市民交流会のように外に出ていく、こういった取り組みを継続することが大事じゃないかとか、そんなにあれが欲しい、これが欲しいというのはやっぱり時代もあると思いますが、無いものねだりというよりは他の自治体、お願いということより、やはり成長から成熟という形の意見が出たと思います。そういう意味では資料2は重要になってきますので、一言一句確認をしたいと思いますので、事務局からもう一度、資料2について読み上げてもらいたいと思います。ここが結構重要ですので、今日の議論はこの資料2も、皆さんの意見をいただいてたたき台を作ってますが、より、どうすれば良いと言うのを、これは議題ですので、ざっくりばらんに、やっぱり富谷らしくしていくという作業だと思いますので、その認識で資料2に目を通していただきたいと思います。それではお願いします。

（事務局 瀧田課長補佐）

それでは「富谷市の実施する具体的な支援について（案）」について、こちらは体系(1)から(8)になっており、地区の実情やニーズに合わせて実施するという表現としております。

(1) 相談・コーディネート・ネットワークづくりについて、地域で活動に関心のある人、すでに地域で活動をしている個人・団体等からの活動等に関する相談への対応、地域の様々な主体をつなぐコーディネート・ネットワークづくりの促進というふうに項目を挙

げておりまして、利用者の相談に対し、市民協働課職員は情報を提供したり、活動や学習のノウハウをアドバイスしたりすることを通じて、利用者が主体的に活動や学びに取り組んでいけるよう支援します。

また、中間支援組織として、子どもから高齢者まで、活動団体や地域施設など様々な主体が連携協働した活動に取り組めるようコーディネートします。

また、市民活動団体、地縁団体、市民、公益法人、事業者、行政等の多様な主体のネットワークづくりをすすめますという表現としております。

(2) 情報発信についてでございます。情報発信、こちらはニューズレターの発行、ホームページ、SNSの活用としております。

活動推進に有益となる講座・イベントや団体活動紹介、助成金等、様々な利用者のニーズに対応したタイムリーな情報を多様な媒体を活用し、発信していく必要があります。

また、情報発信に際しては、利用者から参加・協力を得たり、読者からの意見をもらったりする機会をつくることも有効ですという表現としております。

(3) 情報収集についてでございます。

活動団体登録、知識や技術を活かすボランティアの登録、活動団体、地域施設間における活動情報の収集としておりまして、具体的な内容といたしましては、窓口での相談や、団体・ボランティアの登録を通じて、地域の活動団体や人材の把握、活動する上での課題やニーズ等を確認します。さらに活動を発表する機会を設けたり、活動の現場を訪問・取材したりし、活動内容への理解を深め、情報を収集します。

また、他の地域施設や組織とそれぞれが持つ情報、活動団体や人材バンク、実施イベント等を共有し、生きた情報を蓄積し、相談対応やコーディネートの際に活かしますという表現としております。

(4) 人材の発掘・育成・活用についてです。

活動機会の提供、講座の実施、地域施設間の情報共有としております。

具体的な内容といたしましては、生涯学習や市民活動で活躍している方の中からスキルのある人材を発掘するのはもちろんのこと、団体や地域から収集した情報を活用し、在職時のキャリアも含め様々な分野の技術・知識を持つ人材も、地域での活動をつなぐ担い手として育成を進めます。また、人材の活用として、講座実施への参画を促したり、他の地域施設や団体へ紹介したりするなど、気軽に活動に取り組めるような活動機会の提供、サポート体制を図りますという表現としております。

(5) 施設間のネットワーク構築についてです。

地域施設・組織間の情報共有といたしまして、具体的な内容といたしましては、地域の課題や魅力・情報の共有化を促進するため、市民協働課、富谷市産業交流プラザ、社会福祉協議会、富谷市ボランティアセンター等、地域の施設・組織等と情報共有及びネットワークの構築を進めます。また、市役所関係部署ともネットワーク構築を進めますという表現としております。

(6) 講座イベントについてです。

きっかけづくり講座、団体スキルアップ講座、体験講座、利用者交流会、地域施設・団体との協働イベントの企画・実施としておりまして、具体的には、講座・イベントの企画・実施にあたっては、子どもから高齢者まで幅広い世代の人材の発掘・育成や参加者・団体同士のつながりづくり、情報やノウハウの共有など、それぞれの目的に合わせた仕掛けが重要であり、必要に応じ、実施後の参加者へのサポートを行い、次の段階に繋げていきますという表現としております。

(7) 場の提供・機材の貸出についてです。

会議室・ミーティングコーナーの提供、活動に必要な機材の貸出、コピー機・印刷コー

ナー・レターケース・ロッカーの設置としておりまして、利用者にとって身近で活動しやすい場を提供したり、利用者とのコミュニケーションを図ったりする機会としての活用を図りますとの表現としております。

(8) 活動の活性化を促す助成についてです。

市民の公益的活動の活性化を促す補助金の創設、民間企業の助成金等の情報提供としておりまして、一定の条件のもとですべての市民公益活動団体が公平、公正に補助金を受けられる制度を整備し、活動の自立・継続・発展につなげます。

持続可能な活動に向けた相談に対しては、補助金や民間企業の助成金等の情報提供なども行いますとの表現としております。

以上8項目で結びとして、市民の視点に立った事業展開するために、市民が主体となる事業運営を目指し、市民に企画や運営への参画を促し、市民が行う事業を職員が側面的に支援していきますとしております。

以上です。

(佐々木会長)

ここで一旦、休憩に入りますが、資料2を作っていくのが、今年度のこの審議会の役割となりますが、どうしても今回、基本的に市で書いてもらっているの、目線が全部そっちになってしまうので、特にそこを中心に書き足していかないと、富谷市の実施する具体的な支援についてなんですけど、市役所の市民協働課がやることになってしまっているの、ただ実際、このように書いたとしても、例えば(1)でも、「市民協働課職員」が主語になっているんですけど、例えば情報提供したり、あるいは「中間支援組織として」と書いているんですけど、多分実際できないんですよ。そういうところを創造的に皆さんから意見をいただいて、できないっていうのは簡単なんですけど、じゃあどうすればいいんだっていうことを現場で日頃から見ているらっしゃる皆さんからご意見いただけるといいんじゃないかと思えます。

今回、皆さんの意見とかわくわくミーティングとか市民活動交流会とかの意見を吸い上げてきて、まとめると大体この8つになるというのはとてもいいんじゃないかと思えます。あとはその中身が、市長の話もありましたけど市民力みたいなもので、どう解決できるかがポイントとなってくると思えますので、市役所がどう解決するだと多分無理だと思いますし、市役所の場合人事異動とかもありますし、あるいはその市役所の中で縦割りのもので横の連携をもっとしろと言っても、全国的に無理な話なので、市ができることと市民力で解決できることっていうのはやっぱりコラボレーションが大事になっていますので、そういう意味ではその相互が交わることを納得できるような、キーワードとかがあったらいいんじゃないかと思えます。最近は新しいものを組み合わせたまちづくりが各地で行われています。「レジャーグリーンシティ」みたいなことで。ただ流行りものをくっつけるのではなくて、10年前から町のコンセプト、芽吹くっていうふうにしてきた自治体なんです。結構今、急激に注目されている自治体です。コンセプトで続けてきて、そのコンセプトに例えば流行りもの、グリーンとかデジタルとかをもちろん組み合わせるって、その彼らで作ったアプリみたいなものが、むしろこの前後実際広がってたりするんです。そういう意味では、「協働」といった時にはやっぱり原点になっているのは経費でも、やはり地域住民と行政職員なんですね。この2つがやっぱり文言だけでこういう取り決めたからやりましょうっていうのは難しい話であって、できれば何かの二つを結びつけるようなコンセプトとかキーワードみたいなものを、そこに取り入れていくっていうのも大事だと思っております。

私の説明は以上といたしまして、ここから5分間休憩をはさんでからまた皆さんからご意見を伺いたいと思います。

※5分間の休憩

(佐々木会長)

それでは再開させていただきます。去年、公益的な活動への支援方針について答申を作りまして、今年はさらにその答申した内容の具体的な支援となっております。先ほど繰り返しになりますが、(1)から(8)にとりあえず分類していただきまして、事務局の方で中に文言を組み込んでいったということですが、確認ですが、「富谷市が実施する具体的な支援」というのは「市が」ということになるんですかね。例えば「市民」で支援メニューを考えるとところまでいれなくても大丈夫なんですね。今のままだと語尾も「市がする」とか「すすめます」とか全部、「やります」となっていますので、そうすると約束のようになって、公約のようになってしまいますので、例えば「こういうものが必要です」といった表現でもいいんですよ。具体的な人や組織ではなくても、みんなでこういうことを考えることが重要だと、「誰がやる」といった具体性を出さなくても、例えば中間支援みたいなもので「誰がやりますか」となってその人に頼って、できなくなった事例があるんです。今、中間支援のやり方もだいぶ変わってきているので、もうちょっとフラットな言い方のほうが良いと思います。どういった立ち位置でまとめていくか、「市が」とか「市民活動団体が」やりますといったものになってしまいますと実現できないものも出てきてしまいますので、そのあたりもざっくりばらんにご意見をいただきたいと思います。「富谷市の実施する具体的な支援」についてですが、「富谷市らしい具体的な支援」についてというイメージで考えてもいいんですよ。

(北野澤委員)

前回の答申書を見てみますと、佐々木会長がおっしゃるように、「〇〇します」ではなくて、一番表題のところは「考えます」とかにして、「〇〇支援が必要」とか、バシッと切ってるんですよ。なので、まさしくこの文章だと自分たちこんなことするよう頑張りますよっていう決意表明みたいになっているんですね。これを見ると、市民の人たちは期待をしてしまうということにもなるのでそれは大変だなと思います。

(曾根委員)

具体的に言うと(1)の語尾と(2)の語尾で全然違う。(2)を読んだ時に「発信していく必要があります」とか「機会をつくることも有効です」という書き方になっていると、何か他人事って感じてしまって、誰がするのだろうみたいな、ただそう言ってるだけじゃないのっていう印象は受けます。もちろん、できないことを宣言するっていうのはもちろんしなくていいと思いますが、やはり「〇〇します」って言ってくれたら「してくれるんだ」っていうのは感じるかなと思います。

(佐々木会長)

表現の仕方の部分で「してくれる」って感じますよね。そうすると「主体的な市民活動」とか「主体的な市民」ではないんですね。「受け身」の市民になってしまって、無いものねだりで「あれくれ、これくれ」となってしまう。ただ、ゴールとして、この辺も書き込む必要があると思うんですけど、目的がやっぱり何なのかって言うことで、これも一応最終目的がかかってきますけれども、もうちょっとわかりやすい言葉も必要だと思うん

ですが、「富谷の市民力が向上する」とか「市民協働が活発化する」ということで、何か当事者みたいな市民を増やす。主体的な活動をしていた人へのサポートなんですね。そこを認識して、皆さんで共有していかないと市に求め続けるっていう形になってしまうとこれまでの流れが一変してしまうかなと思います。

私の方からですね、ちょっと前段としてその辺の整理も結構入り口が大事な部分となりますので、そこも含めて皆さんからご意見をいただきたいと思います。

(増田委員)

もしかすると、根本のところから作りなおすというか考えなおしたほうがいいのかかなと思います。もちろんこれは市民協働課の方たちでもこれは無理でしょうと思う内容があるのと、活動している団体からしても、本当に活発に活動しているところって、自分たちができる精一杯をやっているんで、例えば、他の団体とのコーディネートであってもその余裕はない、自分たちの活動をいいものとするのが本末転倒になるような連携っていうのはしたくないということもあるので、(1)からなかなか考えるものがあるという感じです。なので、最初にタイトルを「富谷市らしく市民協働するための・・・」とか、タイトルをみんなで決めないと内容はバラバラになる気がします。

(佐々木会長)

例えば、中間支援をやっていて、これとはまったく別物なんですね。相談・コーディネート・ネットワークづくりっていうところは団体の皆さんから言わせるとどうでもいいところなんですね。日々の活動で見えてる中で、そこにそこまでしていくというのはちょっと違うわけですね。中間支援の方になってしまうと、それで、「人のつなぎ」っていうか、本来中間支援は違うんですけど、本来の中間支援っていうのは人をコーディネートするっていうのは最近流行りで、緩やかなネットワークって言われたのが、2010年代で、最近の中間支援はとりあえず人をつなぐことが中間支援みたいになっていますが、本来は違って、新しく何かこう始めるみたいな分野で始めるところに案内してもらうようなもので、日本だけ独自で、行政がやれない部分を、どこかに委託して、行政の一部を手放して中間支援を委託するみたいになっているので、どうしても広く薄く、結局つなげばいいっていうような形になって、ちょっと日本的な特徴なんですよ。とは言え、中間支援の視点も、活動団体の視点もすごく重要ですので、今お話いただいた通り、まずテーマについて、しっかりとまずみんなで考えることでいいんじゃないかなと思います。このテーマ、結構ここが本当に増田委員のおっしゃる通り、ここ決めないで中身を決めていっても、ここにいる人たちも結局多様性が大事なので、皆さんの意見が一致することは求めてないんですけど、この最初の部分はある程度、認識して進めないとなさずがに多様性も発揮されないとします。

(佐伯委員)

先に小学校のPTAをして、それから中学校のPTAを引き受けているんですけども、この間、PTAをしていて、とにかく一番感じているのは先生方は大変だなあとということです。中学校はクラブ活動が外部委託な感じに少しずつ移行してきていますが、小学校のほうはまだ一人の先生が生徒と向き合っているのがすごく大変だなというのを感じていまして、特に高学年、ちょっと中学校寄りに教科担任みたいな感じで専門教科以外、特にミシンの扱いがすごく難しく、いつもトラブルになっていて、生徒が物事が進めない、作り終えることが出来ない、作る楽しみを経験させることが出来ないということを先生がおっしゃっていて、そこでお手伝いをさせていただいていたんですけども、そういう

PTA をしていて小学校に入り込む、中学校に入り込んでいる感覚からするとそういうところを変えていきたいという思いがあります。

(佐々木会長)

今の話も富谷市らしい支援につながっていく話だと思います。そういう課題に対して地域の人がお手伝いをするというのも支援だと思います。案外、そういったことの方が大事な気がします。

(増田委員)

今日の会議でよかったなと思うのが昨日の市民活動交流会がとても良くて、あれにすごく富谷の可能性を感じたんです。初めて会った方たちもいたんですけども、どんな活動をなさっているのかもっと時間があって、もっと話を聞きたかった。富谷の規模と富谷の持っているいろんな資源と、私たちはなんとなくシャインマスカットを作っているらしいというのは聞いていたものの、実際現場で実がなっているのを見た時の感動とかワクワクを共有することで、そこにいた人たちがもっとお互い知りたくなったり、活動からの発想というのが形から入るのではなく、昨日のイベントが答申を作るに参考になると思うので、参加した方々の昨日の感想も含めて可能性みたいなものを話してもらうとなんかテーマも見えてくるような気がします。

(佐々木会長)

議論というのはそういうもので共有して拡散して混沌して進めていくものですが、混沌しないと議論はできないので本当にそうだと思います。「具体的な」と書かれてしまうと人によって捉え方が全然違って、例えば今の若者は「具体的な支援」というと要望型ではないんです。大学に対してもっと教材を用意してくれとかはあんまり言わないんです。高度経済成長期の時のサービスを受けた人たちですと行政にモノを頼むと用意してくれるんじゃないかという認識がありますし、お金もありましたので、打ち出の小づちではないんですが出てくる時代もあったと思うんです。人も少ない、予算も少ないという中で具体的な支援を考えていくということで、「具体的な」というのがあまりモノとか必ずしもお金に限らなくてもいいと思うんです。やっぱり苦しいじゃないですか。予算の話になって、お金ないのに市民活動の予算を取りますかってなるのはどうなるか分かりませんし。本当に市民の方が求めているのかも分からないところもあります。表面的には「あげますよ」と言えば「もらう」とみんな言うと思うんですが。

(佐藤怜美委員)

私も昨日、交流会に参加させていただいて、1回目の審議会でこういうのをやれたらいいねというものがこんなに早く実現するとは思わなかった、うれしいなという気持ちで昨日参加させていただきました。現地に行ってみんな、活動者の実際の現場を見て、そしてハチミツも食べさせていただいたり、会議とかだとやはり固い感じのところがあるので、昨日は現地に行って、ワイワイやったおかげで会館でグループワークをやった時に、隣の人とすぐ話ができる状態ですごく良かったなと。そこに政悦さんがつくったブドウが出たり、そういったものがありました。私も皆さんの意見を聞いたんですが、「元気をもらった」というのが印象的だったんですが、市民活動をどのようにしていくかという課題から入るのではなく、楽しいところから入る「会議」というよりは「交流会」というのは非常に大切だなあということを感じました。今日の支援についてというところですが、以前、協働のガイドラインを作った時に「富谷の協働ガイドライン」というのは固すぎるという

ことになって、それをサブタイトルにしたような経緯があったと思うんですね。「わくわく つながる わたしたちのまちづくり」というのを大きなタイトルにして、みんなが入りやすいような、楽しくなるような、そういったところから入るのが良いのではないかということになったと思います。これから求められることが、協働の意識を高めていくことというのが課題で、ガイドラインの中でも言われていたと思います。タイトルについて増田委員がおっしゃったように、「富谷市の・・・」ではなくて、市が出来ること、市民が出来ることをみんなで理解しましょうというのがガイドラインで書かれていたことかなと思いますので、楽しくなることから広がることという風に、市民が入りやすいようにしていけばいいのかなとそういうイメージでおりました。

(佐々木会長)

議論する時に我々が想像するものは(委員の皆さんは)それぞれの団体から出てきますけれども、おそらくそれぞれの団体、職場のことではなくて参加している皆さんを想像するということが大事ですね。

(村上委員)

昨日の第1回目の市民活動交流会、この場がまさに市民協働課からの支援だと感じました。ガイドラインは、わくわくつながる、自分たちの富谷をどうするかっていうまちづくりなわけだから、わくわくつながれたような雰囲気になったんですね。わくわくつながれて、さらに市民協働課の皆さんのサポート支援があり、それが実際にもう支援なのかなっていうふうにとらえて、そういう形の支援で私は十分なんじゃないかなというふうに思いましたし、わくわくミーティングもされてるじゃないですか。そのわくわくミーティングの意見を見ると、まさに昨日やっていたことがいくつかここに実践されたんじゃないかなというふうに思いました。活動する人同士が横のつながりが希薄だっていうのを、小さな輪だったけれども、いろんな市民団体、私も初めてお会いした方々ばかりでしたが、さらにそのほかにもいろいろな活動をされている方がまだまだいるということを知るきっかけになりましたし、こういうことを広げて、市民の意見を吸い上げながらつくりあげていく、協働なまちづくりというものであれば、支援というサポートをしていく、富谷のサポートセンターのような役割みたいな、こういう「わくわくつながる」というところをこのままやっていってもらえればいい形になっていくと感じがしました。市民団体の上の人だけではなくて、一緒にやっている人たちが横に広がっていけば、おのずとコーディネートだったり、こういうイベントであったりネットワークができていく、私も実際、昨日知り合った人と、こういうのをやるんだけど一緒にやりませんかみたいな話ができたりとか、実際に興味を持ったりとかしましたし、農業と富谷市のまちづくりが合体できるような場でもあったし、いろんな方面で意識を皆さん持たれたのではないかと。そういう形が富谷らしい、市民力でつなげていけるような感じになるんじゃないかと思います。

(佐々木会長)

輪という話ができました。輪にはいろんな輪がある。強制的に輪を作るのは大変ですけれども、相談を受けるとか、コーディネートをするとか、無理に結びつけるというところによって、皆さんが輪を作りたい、作りやすいようなことになっていくのが輪づくりだと思います。さっきの小学校中学校の件もそういう話なんですよ。先生たちの課題とかを知った人たちが自然にも手伝っているということなんですよ。頼まれたわけではないんですよ。

(増田委員)

昨日のあの場を作ってくれただけで、年に1回あの場があって、来年はこれがしたいという、いろんな意見が出てその中で、次はこれにしようとなんがみんなが決めたものをバスを出してもらったりと市のほうの協力も必要だと思うが、自分たちの発想で自分たちの企画でやると、勝手に輪が広がって。そういう風にやっていると強制的につながるの難しいと思います。わくわくするから時間を作って「行く」となる。

(佐々木会長)

念願だったという人もいました。長年この富谷にいて、ずっとその生産現場を見てみたかったということでした。炎天下だったんで、大丈夫かなというふうに思っていましたけど、市民協働課で頑張ってくれて調整してくれました。

(北野澤委員)

結構、今までになく私この文章読んできて、具体的な支援ってということだったので、自分がこんなことをしてもらったら嬉しいとか、こんなことをやったらどうだろうっていうのを、ちょっと考えてきたので、これちょっとテーマから外れるかもしれないと考えてきた分だけしゃべってみます。今、社会の話題になってる利用者の主体的な活動の「主体的」っていうのが、ちょっと別な本を見たら、「してあげる」支援から「できるようになる」支援っていう、センテンスがあって、やっぱりこれだと、「してあげますよ」っていう文章になってしまうので、そうではなくて、「いろんなことをサポートしますよ」っていう話になるのかなと思います。あと、私この間、まもなく65歳になるので、年金のセンターに行ってきたんですね。そしたら、職員が対応するんじゃなくて、社会保険労務士さんが対応してくれて、税金の関係で税務署に行くと、税務署職員じゃなくて、税理士さんが対応してくれるんですね。それぞれのプロフェッショナルが対応してくれる。コーディネート为例えばする時も、無理なのかもしれないんですけども、そういうプロフェッショナルみたいなコーディネート、いろんなことを知ってる人が、やれるといいなというのがあって、あとはマッチングアプリではないんですけども、ここにもありましたけど、したい人、してあげる人と、して欲しい人を何かマッチングできるようなものがあると、例えば広報関係に載せておくっていうのも、一つ良いことなのかなっていうふうに思っています。あとは、富谷市出身の女性アイドルグループのメンバーがいるので、富谷市観光大使になっていただいて、富谷市のイメージ向上になっていけばと思います。あともう一つは、私が家を建てたときに何をしたかったかっていうと、家庭菜園と実のなる木を庭に植えることだったんですけど、家庭菜園でまず駄目になったのは、土がつかれないんです。農家の畑のところを車でいくとすごくいい土があったんです。だからその土の作り方とか、家庭菜園、ブルーベリーだと剪定の仕方とか、今でも、毎日のようにYouTubeを見ながらですね、勉強してるんですけどもそういうのを、村上さんから教えてもらおうとかね、そういうのがあったら、今回は佐藤さんの方にお邪魔したけども、そういうことも市民が望んでいるっていうか、特にそういうのがあってもいいのかなって考えています。

(佐々木会長)

しっかり読み込んで来ていただきありがとうございます。まさに「市民協働」とはそういうイメージですね。

(日諸委員)

ガイドラインを作った時に、みんなで楽しく住みよいまちをつくっていきましょうというねらいがありました。私が今関わっている仕事のことをお話したいと思います。シルバー人材センターの子育てサロンは女性会員に子育てサポーター養成講座を受講した方のみ就業していただいています。サロンは親子で遊びに来てもらう場所なんですけど、ここは平成20年4月に開所し、富谷の「実家」のような気持ちでご利用いただければと思ってやっています。お話もしない子どもと二人でおうちにいるという方が来て、スタッフのばあばと話をしてほっとするという話をいただきます。子どもが行きたいというのはもちろんのこと、お母さんがその場に来て、ほっとする場を提供しているのです。そこがあるから安心して二人目も産めますと言って下さる方もいらっしゃいます。お母さんが家から出れなくっているような人がサロンに来てお話しして、リフレッシュしてママ達の「駆け込み寺」のようなものにしようねとみんなで笑っているのですが、そういうことも高齢者が生きる一つの力になっているのかと思います。それとギャラリーなごみというのは旧脇本陣の氣仙屋さんのところをお借りして小物を作って販売しています。そこに移転して本当にありがたいと思うのは、いい茶屋さんに「チラシを置いたらいいんじゃない、ここ、人がいっぱいくるから」とかNIYADOさんからは特にお願いしてなくとも「この場所どうぞ使ってください」といった感じで周りからいろいろとやさしい言葉をかけていただき、その他にも着物か生地などを使ってくださいとお客様から頂いたりもします。それって本当に富谷市らしいところで、みんな生き生きとしていて、そこで活動できるのは幸せだな、ありがたいなと思っています。全国に1,300以上あるシルバー人材センターの中でもなかなかこのような状況にあるセンターは少なく、女性活躍の事例ということで全国シルバーで発表をするなど、これも市の応援があって活動できているんです。発表に対して「富谷市さんは市とシルバーがすごく連携を取ってすばらしいまちですね」ということを講評でいただいて来ました。富谷市らしい、そういうことを少しでも還元できて、市のお役に立てるとというのが会員みんなの生きがいにもつながり、居場所にもつながり、ありがたいと感謝しています。協働のまちづくりの一コマでもお手伝い出来ないかと思っているのですが、別に資格やキャリアがなくても、こういう人たちも協働の一翼を担うことができるのではないかと考えておりました。

(佐々木会長)

やはり皆さん共通しているのが「らしい」とか「らしさ」が重要だというお話でした。やはり、「らしい」というのを入れていくべきだと思いますし、タイトルにも「富谷市らしい」とか、あるいは項目として(1)から(8)までありますけど、全部に「富谷市らしい」を付けて考えるとか。地域の強みとか地域の個性になってくるところだと思います。もう一つは文書を書く時にそういった事例があるじゃないですか。事実を書いて、今こういうことが起きているからこういうものを継続するといった書き方も有りではないかと思えますし、完全にゼロベースからやるのではなくてすでにあるもの、事例があるのであれば、そういうことがあるのでこういうことが必要だといった書き方もいいのではないかと思えます。自分たちのできることの範疇を越えないほうがいいと思いますのでそういった書き方もあると思いました。

(平岡委員)

市内には48町内会がありますので、どこどこで何をやったとかをただ、耳で聞くだけではなくて、そういう場所に足を運ぶことによって、例えば、まちかどカフェをしましたとなった時に行ってみるとそこからつながることって結構あると思います。発信の仕方と

かではないと思うんです。どんなにホームページとかSNSとかで宣伝しても、行かない人は行かない。だから興味を持ってもらうにはどうしたらいいかをずっと考えてはいるんですけど。どうしてもやっぱりその人の気持ちと、あとは先ほどから出ている、その場に行き、そこから輪とつながりとか、そういうのが生まれてくると思うので、やっぱり何かあったときは足を向けて欲しいのと、そこに行った人たちも声かけをして広がっていくところがあると思います。初めて来た人たちともそういう話で今度こういうのあるから、こういうのやってるからとかっていう、現場に行き、そこで人と関わりあって、それを伝えていくというのが一番の発信力かなと思いました。町内会もいろんな催しやってるっていても、ただ形でやってるのではなくて、本当にせっかく会館という使う場所があるんで、そこを大いに利用しながらというのと、あとは、市の方の取り組みに発信して行って欲しいと思います。県外に住んでいた娘が最近帰ってきて、せっかく富谷にこんないろんな取り組み、いろんなことやっているのになんでみんなはこういうところに行かないんだろうと思っているようです。そういう形で輪とつながり、現場に来てもらってそこから広がっていくのが一番なのかなと思っています。

(佐々木会長)

情報発信とかでも、市の広報がやるのは確かにいいですよ。このニュースレター、ホームページとかSNSは。ただ、市民活動というやっぱり違うんじゃないかと思います。昨日来た参加者の皆さんも横同士の口コミで来ているんですよ。こういうのがあって2人で車で行こうとか、だから今、情報発信の話がありましたけれども、市民協働という意味ではこういった行政が日頃やってるような広報発信という視点ではなくて、実は観光とかでも実は口コミが一番強いと言われていています。富谷は市になってすごいところもありますけれども人口で言えば5万人なんですよ。首都圏で横浜とか、市民活動が盛んですけれども、横浜はディシズムという合意形成アプリをすぐ使うんです。合意形成なんか今、デジタルがはいってきていますが、人口規模が違うので、100万人のところでは10人集めるのと5万人のところでは10人集めるのというのは全く意味合いが違って、逆に、横浜のような規模で例えば10人だけのワークショップやっても、それで全体を決めるのはさすがに良くないということでデジタルを使っていくしかないところもある。一方で人が少なすぎて、過疎でデジタルを使わないと出た人の意見が全く入らなくなっちゃうような問題もあるんですけど、富谷のこの規模で考えるというのはすごく大事だと思う。この規模だから口コミでも広がっていくし、口コミを強化したほうがプラスアルファで若い人向けにSNSを使うというのはありだと思う。1番目のところは、村上委員から「輪づくり」というキーワードをいただいて、2番目のところは平岡委員からは情報発信もさることながら口コミみたいなものも大事だっていう貴重な意見をいただいたと思います。

(曽根委員)

今回、タイトルというところと言うと、まず、今回審議事項として支援方針についてとなっているんですが、支援という言葉自体、もしかしたらとってもいいんじゃないかと思います。ガイドラインの「わくわく つながる わたしたちのまちづくり」という名前が本当にいいなと思っていて、これをもう入れちゃうというのもひとつかなと思います。単純に「わくわくつながるまちづくりに向けて」ぐらいでもいいとも思いますし、要は市民の皆さんと一緒にやっついこうとか、何か作っついこうとか、参加していこうとかなんかそういう印象を持ってもらえるような形のタイトルがいいのかなと思いました。個人的なところで言うと、情報発信にすごく興味があって、これを読んで、情報発信は結局、一番ベースだと思うんです。どんないいことをイベントやろうが何しようが、そこ伝わらない訳

には何も始まらない。どんな相談を受けるとかでもそうですけど、相談に気軽に行っていんだとか思ってもらえることが大事だと思っていて、その上でちょっとすごい個人的にこれがものすごい興味あって、例えばこれ、情報発信だけじゃないんですけどその全体的に市民協働課さんでいうと(1)とか(3)で全部できるのかって言ったら厳しいという中で、「自分でやりたいんだ」とか、こういう団体の取材、(3)の情報収集もそうですけど、現場に行ってお取材してそれを(2)の情報発信につなげることってやりたい分野で、例えば団体を作ってやるのもありだなと、勝手に想像してたんですけど、要はこれを持ったときに私みたいに、これなら私もできるかもとか、一緒にやりたいとか思ってくれる人が出てきたら、市の負担も減らして、みんなで本当に作り上げるっていうことができいくのかなっていうふうに思いました。なので、方向性的にはみんながそういうふうに一緒に協力してやろうっていうようなイメージでつくれたらいいのかなと思います。

(佐々木会長)

「支援」という言葉なんですよ。みなさんが思っている中間支援は、例えば全国的、世界的に見たときに本当なのかと、支援については考えて使った方がいい言葉かもしれないですね。特にかつてような、モノのない時代、いかに供給するかという支援ではなく、モノのあふれる時代、情報もあふれすぎて、それをどういう風に咀嚼したらいいか、今、学生たちは悩んでいるんですね。イベントとかにしてもいろんなイベントがまわってきて、いろんな活動する人が出てきたりすると、もうその人にも意見もらって、情報があふれてるようなケースもあるんですね。むしろその人に必要な情報を届けるには受けるにはどうしたらいいかということが必要になってくると思うんですが、今、曾根委員からは「支援」という言葉の使い方と、情報発信についてもご意見でした。

今日もこのような感じで皆さんに忌憚ない意見をいただいているんですけど、今回、資料2の構成については他自治体、同規模の自治体の事例を参考として進めていくんです。これは行政のセオリーです。市民活動条例はすごく広がっているんです。初めて定めたのは北海道のニセコ町です。その市民活動条例ってのが日本で広まっていく「協働条例」と言われてるんですけど、大体、どこの自治体もコピー&ペーストみたいな感じなんです。ただその広がり方がとんでもなく広がっていったというのが日本の「協働」なんです。今は「協働」から「共創」へと言われています。「共創」って何かといった時に、もともとアメリカの方から始まったのですが、「共創」とはユニークな価値をどのように創造するかでした。なので「協働」は、一緒に作業するところが協働です。こういう形で皆さん一緒に作業してきて、「ユニークな価値を創造する」というのがこれからの行政にも入ってくると思います。横浜も「市民協働」という言葉から「市民共創」という言葉に置き換えています。ただ、中身は「市民協働」と一緒です。協働から共創に変わっていく中でユニークな価値を創っていく、「富谷らしさ」を創っていくことなんです。皆さんの想いを感じるところがすごくあります。

(平岡委員)

「富谷らしい」もいいんですが、「富谷市と市民が」とか。「富谷市が」するのではなくて富谷市と市民が一緒になってやるもので、もちろん「支援」じゃなくて、「取り組み」とか言葉を変えるとか、やわらかく、「富谷市と市民がわくわくする取り組みについて」とか、市から与えられたのではなくて、自分たちの方から何かやっついこうかという気持ちになればと思います。

(佐々木会長)

最後にテーマを探っていきたいと思うんですけども、「富谷市の実施する」ではなくて、例えば「富谷市と富谷市民で作り上げていく」みたいなニュアンスを入れてもいいのではないかというお話だったと思います。

(増田委員)

皆さんのお話を心を打たれて聞いていて、「ここが実家になればいい」って、ここが実家の人は少ない、私もここが実家になってくれればいいと思って活動をしている。どこから来た人もここに住んだらここがもうひとつの実家みたいな感じになる、そんなまちってどうなんだろうみたいな。なんかひとつのあったかいテーマとしてはそういうのがとてもいいなと思います。富谷市のちょうどいい規模感と程よく農業、お店、市民活動いろんなものがあって、多分、行政の方は良くわからないと思うんですけど、住民と市がとても近いから昨日のようなものが実現したと私は思います。それがとっても強い持ち味。この近さ、規模感、あらゆる他にはない持ち味を活かして、「富谷市こんなの出してきた」みたいなものを作りたいなと、なんかすごい燃えてきました。頭を抱えて、これ実現できないかもしれないじゃなくて、もうそれなら私たちも一緒にやりたいみたいにとっちも思えるものを作らないと、紙で終わります。紙で終わるものに時間を費やしたくない。

(佐々木会長)

どうしても実務の中で机の上でやらなくてはいけなくなるから、やっぱり全部調べて書き込んでいくんですけども、人を想像して作っていくのが大切だと思います。昨日来た参加者の皆さんがこんなに喜んでくれるんだという、講師として話してくれている佐藤政悦委員もすごく張り切って、自分の日頃の職場に行って、そういう場所に人を招き入れていただけると、ああいうぬくもりがあるというか、ああいう場でやるのはすごくいいし、分かりやすいと思います。

(増田委員)

ひとりの方の夢をかなえた場でもある。いろんなところで話しているけど富谷市では話をしたことがないってことでしたね。富谷市で話したいというひとりの夢をかなえました場でもあった。なんかそういうほうがすごく市民協働ではないかと思う。

(佐々木会長)

ちょっとSDGsっぽいんですけど、一人ひとりのひとりになっちゃいますけど、この全体で見るのも重要ですけど、市民協働は一人ひとりをきちんと見ていくということも大事かもしれません。5万人はすごいんですけど、全国的な人口から見れば、市の中ではやっぱり少ないほうではあると思いますので、逆にそれはできるということだと思うんです。やっぱり中規模のところに行くとデジタルの発想となるのもしょうがない。100万人でとなるとやりにくいところもあると思うんですけど、富谷だとできると思うんです。

(平岡委員)

私は個人的になりますけど、仙台、多賀城、富谷と三つのところで10年だ5年だと長くいましたけれども、おそらく、ここが最後の場所だと思っていますし、あとはやっぱり先ほどの日諸委員の「実家」、「第二のふるさと」にここをしたいなと。団地のほうにいる人たちは特に持っているかと思っています。子ども世代まで多分ここでふるさとに、実家にしようって気持ちでいると思いますので、そういうことも大事にしながら富谷をもっとも

っと私は知りたい。年齢的なものもあるでしょうけど、これはあんまり今関心ないっていうか、あと立場、あんまりこういうふうに入っていく機会がなかったんですけど、今やっぱり本当にいろんなところを見させてもらって、すごくそれは感じてます。やっぱり今いるところを大事にしてもらいたいということも、ここにいる人は十分わかってますけど、大いにみんなに発信したいなあと思います。

(佐々木会長)

もうやっぱり今のような話ですと(4)にもかかわってきますね。人材の発掘して、育てて、っていうだけじゃなくて、働いてもらうってよりも、やっぱり何か実家である富谷を良くしたいって人たちに集まってもらうということもあると思って聞いてました。

(増田委員)

さっき、(1) だったら「輪づくり」とか、(2) だったら「ロコミ」とか、キーワードが出てきたと思うんですね。これをまた1から作るのは大変だと思うので、メールとかでも「こういったものがあると思う」とか「こういう表現にしたほうが良いと思う」というのを情報で寄せていただきながら良いと思う。

(佐々木会長)

そうですね。多分、8つの分け方は良いと思うんです。あとはもう作業としては、「富谷らしく」変えていくっていう感じですね。あと、やっぱりテーマを富谷市だけでなく、市と市民でやっていくとか、実家という言葉は入れられませんが、そういう感覚の言葉を入れていくといった、みんなが良くしたいと思っている大好きな実家と言えるくらいのまちをどういうふうにやっていくといった案を考えてみたり、今みたいな言葉に言い換えていくといった作業になると思います。増田委員からご意見がありましたけれども、文書を考えるのは大変なので、キーワードでいいので「ここにこんな言葉、イメージがあるといいんじゃないか」というのを手書きでもいいので、皆さんに宿題で恐縮なんですけれども、メールに打ち込みでもいいので、こんなイメージのものをいいんじゃないかというものを拾ってもらって、また次の時にもんで、最終的なものをみんなで作っていきたいと思います。ということで今日、ここでテーマを決定するというのは無理な話ですので、みなさんにはぜひ一緒に作っていくということでキーワードを本当に落書きみたいなもので結構ですを出していただければと思います。今日は皆さんからも意見がかなり出させていただきました。ここでみなさんにお諮りしたいんですけれども、本日の審議は以上とさせていただきます。あとみなさんにも少しキーワードを出していただいて、そしてまた市民協働課の方で、少し文言の改善案を作ってください、また事前に私の方で見ますので、その上で次回審議会ではみなさんにお見せして、3回かけてゆっくり作っていくということで皆さんよろしいでしょうか。

※「異議なし」の声あり

それでは進行は事務局にお返ししたいと思います。みなさんどうもありがとうございました。

(事務局 坂爪課長)

委員の皆様、長時間のご審議ありがとうございました。

5. その他といたしまして事務局から連絡がございます。

(事務局 瀧田課長補佐)

本日の審議会の会議録につきましては、ご確認を今後お願いすることとなります。どうぞよろしくお願いいたします。事務局からの連絡は以上となります。

(事務局 坂爪課長)

それでは閉会のあいさつを平岡会長職務代理者をお願いいたします。

(平岡会長職務代理者)

今日も自分たちの言いたいことを言えたかなというか、本当にこの審議会は私も大好きなんですけど、言ったからには、私たちもそこに向けて頑張っていきたいと思えますし、今まで富谷市の取り組みだったものが、市民の取り組みになっていければいいかなって、いつも期待しております。私たちの実家である富谷市にこれからも期待しております。本日は皆さん本当に暑い中ありがとうございました。

(事務局 坂爪課長)

以上をもちまして、令和5年度第2回富谷市協働のまちづくり推進審議会を終了させていただきます。本日は大変お疲れ様でした。